

令和7年3月5日発行

# 本部だより

全国公立小・中学校女性校長会  
会長 井口美由紀

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-13 全日本中学校長会館302号  
TEL03-3502-0313 FAX03-3502-0075 E-mail:queen@m9.dion.ne.jp

## 令和6年度 全国公立小・中学校女性校長会 第2回 理事会

令和7年1月18日(土) 会場:アルカディア市ヶ谷



全国公立小・中学校女性校長会  
会長 井口美由紀

本日は、校務御多用のところ、令和6年度 第2回理事会に御出席いただきまして、ありがとうございます。

理事の皆様には、8月に開催されました全国研究協議大会北海道大会への御支援・御協力をいただきましたこと、厚く感謝申し上げます。

山下 尊子北海道公立小・中・特別支援学校女性管理職会会長、福島 由紀子大会実行委員長をはじめ、北海道の実行委員会の皆様と、本日お集まりの理事様の御協力のおかげで、会員の皆様の心に残り、学校経営への示唆に富んだ全国研究協議大会を開催することができました。心から御礼申し上げます。

本日の第2回理事会は、今年度の活動を御報告し、来年度の活動方針案や事業計画などについて、皆様に御審議いただきます。第1回理事会において、理事の皆様から頂きました御意見につきましても、四部会、本部会で検討致しました。本日の提案は、その内容を踏まえたものとなっております。限られた時間ではございますが、有意義な会合になれば幸いに存じます。

さて近年教育現場は、多様化と複雑化が進んでいます。急速に進化するデジタル技術、社会的な価値観の変化、そして子供たちの多様な背景やニーズにこたえるため、教育には柔軟性と先見性が求められています。しかし教育界において、女性教員の割合は高いにも関わらず、管理職における女性の割合は限定的で、その状況が徐々に改善されているとはいえ、依然としてジェンダー不平等の課題が残っています。皆様はこうした状況を打破し、次世代の女性リーダーたちのロールモデルとなる存在なのです。

現在でも、日本の現状として、女子は職業上の専門的な資格が取れなければ、大学に進学しなくてよいという考えをもつ親は少なからずいるようです。この資格とは、医師・弁護士・薬剤師・教師などの資格です。また、弟を大学に行かせるために、姉は、専門学校でと言われるケースも耳にします。この考え方が、国際社会において、

女子の大学・大学院進学者の割合を低めている根本原因と言えます。

昨年12月10日にOECDが公表した国際成人力調査(PIAAC)結果によると、日本は全項目でOECD平均を大きく上回りました。その一方で、高等教育で「STEM」と呼ばれる化学・技術・工学・数学分野を学んだ女性の割合は、加盟国の中で最下位となりました。こうした日本の状況をOECDでは「PIAACやPISAを見てもSTEM分野で男性より女性が劣っているわけではない。スキルがあってもその分野に進まない。ロールモデルを示したり、志望動機をもちやすくしたりする必要がある」と分析しています。それは小4と中2を対象として行われた「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)」でも、算数・数学・理科に対する興味関心において男女で意識の差がある結果となっていることにも強い関連があると考えます。専門家からは「女子が理系に進まない状況を作ってしまうかねない」「義務教育の段階で生じた男女の差は拡大することはあってもほとんど縮小しない」というコメントがありましたが、こうした状況を変えていくためにも、子供や保護者の意識改革は最も重要であり、教育の役割は非常に重大であると言えます。

また、ある企業ではIT業界における顕著なジェンダーギャップ解消を目指し、女性を対象に無償で人工知能(AI)技術を習得できるプログラムを昨年より開始しました。女性AI人材の育成に特化した取組で、約7000人が参加しキャリアの幅を広げているといます。

多様な視点や柔軟な対応力、共感に基づく意思決定など、校長に求められるリーダーシップは、社会全体においても求められる重要な資質です。目の前の子供たちが性別や年齢、国籍などに関係なく自由な選択が尊重され、誰もが自分の可能性を最大限に発揮できる社会を共に創ってまいりましょう。

令和7年度は、第75回全国研究協議大会を東京都目黒区で開催いたします。現在、東京都の実行委員会の皆様準備に力を尽くして下さっております。理事の皆様と今年の夏に東京・目黒でお会いできますことを心から願い、私の挨拶とさせていただきます。

昨年、「ダイバーシティ・女性活躍がなぜ進まない?」の著者、羽生祥子（はぶさちこ）様のお話を伺う機会がありました。羽生様は、多様性のある組織づくりについて、様々な団体や会社の研修講師としても御活躍されています。述べられていたことで印象的だったのは、女性活躍推進を考えるときには、労働背景と男女の役割分担の歴史を紐解いて、女性の背負ってきたものを理解すると同時に、男性が背負わされてきた役割の理解をすることも必要だということでした。社会の仕組みの中で生じてきた性別による役割分担について理解した上で、男女という性別によって生き方や働き方を固定するような社会を直していきたいとおっしゃっていました。男女で差別や区別するのではなく、お互いを尊重することが大切だということです。

私たちの教育現場においては、多様性を理解し多様性を実現する環境が、子供たちに与える影響は計り知れません。しかし、教職員には依然としてジェンダーギャップが存在し、女性管理職の割合は他国と比べて、かなり低い水準にあります。先進諸国において小学校の教員は女性の方が多いたのは他国でも同様です。ジェンダーギャップが小さい国においては、すでに、8年前には管理職も当然女性が50%を超えて多くなっている国もあると確認しています。私たちはこの現実をしっかり受け止め、ジェンダーギャップ指数の改善に向けて、性別だけでなく、様々な背景をもつ教職員が力を発揮できる職場環境を構築することが重要な課題であると考えます。そして、多様性のある教育環境こそが子供たちが自分らしさを発揮できる環境だと考えます。まず、管理職がアンコンシャスバイアスを取り去り、多様性のある組織を実現し、様々なリーダーが活躍できる職場環境を作ってまいりましょう。そのためにも、本会での学びを幾重にも生かしていただきたいと改めて強く思います。

未来を生きる人材を育てるといふ、私たちの使命を常に胸に置き、本日の理事会で、私たちの絆をこれまで以上に紡ぎ、共に進んでまいりましょう。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 報告事項

- 1 令和6年度中間事業報告…………… 庶務部長 山口祐美子
- 2 令和6年度中間決算報告…………… 会計部長 村田悦子
- 3 令和6年度中間監査報告…………… 監査 中川佳美
- 4 第74回 全国研究協議大会「北海道大会」報告…………… 北海道理事 鈴木真由美  
\* 1～4は、適切に執行・実施された。

### 協議事項

- 1 令和7年度活動方針案審議…………… 対策部長 江口千穂  
活動方針、本会の研究主題についての新たな提案（日本人を育成する→子供を育てる）が、検討・協議され、承認された。
- 2 令和7年度事業計画案審議…………… 庶務部長 山口祐美子  
第75回東京大会、理事会（年2回）の開催、デジタルを活用した本部だより等の配信、ホームページの充実について、検討・協議され、承認された。
- 3 令和7年度予算案審議…………… 会計部長 村田悦子  
令和7年度予算案について、会費や繰越金、全国大会の提案者の旅費予算等について、検討・協議され承認された。
- 4 全国研究協議大会開催県・発表県…………… 対策部 成田弥生  
令和10年度 大会開催地区・県 発表地区・県について

大会開催	1 - 1	1 - 2	2 - 1	2 - 2	3 - 1	3 - 2
関東・千葉	中学部・宮崎	九州・佐賀	近畿・兵庫	中部・静岡	中国・山口	東京

- 5 令和7年7月31日(木)・8月1日(金)開催 第75回「東京大会」… 東京都理事 小川真由美  
\*大会の分散会の提案者・指導助言者等、実施計画細案が提案され、承認された。

- 6 令和8年7月30日(木)・31日(金)開催 第76回「青森大会」…… 青森県理事 竹原まりこ  
\*大会の概要、主題・分科会主題、分散会協議題、記念講演等、実施計画案について提案され、承認された。
- 7 令和9年8月2日(月)・3日(火)開催 第77回「大分大会」…… 大分県理事 安藤 陽子  
\*大会副主題、会場、大会日程、記念講演講師等、大会の素案が提案され、承認された。
- 8 監査任期について…… 会 長 井口美由紀  
\*会則第6条(監査)について、任期は9月1日から翌々年の8月31日に変更することが提案され、承認された。

### 選考委員長報告

…… 東京都理事 小川真由美  
\*「全国公立小・中学校女性校長会会則」第二章役員 第6条1～2に則り、令和7年度会長・副会長を次の通り選出した。

会 長	東京都・杉並区立杉並第一小学校長……	山口祐美子
副 会 長	千葉県・八千代市立八千代台西小学校長……	佐々木優子
	東京都(次年度、東京都公立小・中学校女性校長会会長) 青森県・中泊町立中里中学校長……	中谷由恵子

### 監査の選出

…… 北海道代表理事 鈴木真由美  
\*第1回理事会で決定した通り、令和7・8年度の監査は北海道地区から推薦された。

監 査	北海道・札幌市立明園小学校長……	高橋 美保
-----	------------------	-------

### 令和7年度組織運営について

…… 会 長 井口美由紀  
\*令和7年度5部長が次の通り、報告された。

庶務部長	東京都・墨田区立緑小学校長……	浮津あゆみ
会計部長	東京都・江東区立南砂小学校長……	石川 千影
対策部長	東京都・北区立王子第二小学校長……	江口 千穂
広報部長	神奈川県・小田原市立東富水小学校長……	井上 智子
研修部長	東京都・福生市立福生第七小学校長……	山岸 史子

\*令和7年度 顧問は、井口美由紀 現会長が就任。

### 報告・連絡事項

- (1) 各都道府県の活動状況調査依頼について…… 対 策 部 北川みどり  
(2) 会報第117号について …… 研 修 部 長 近 香奈子  
(3) 会報第118号について …… 広 報 部 長 横濱 元己  
(4) 各都道府県会員名簿の提出について…… 庶務副部長 浮津あゆみ  
(5) 地区大会について…… 対 策 部 龍花 千鶴  
(6) ホームページについて…… 対 策 部 平林 里美  
(7) 表彰状の贈呈について…… 対 策 部 田村香代子  
(8) 特別研修について…… 庶 務 部 海老江直子

### 能登半島地震の義援金について(最終報告)

能登半島地震における義援金につきましては、多くの皆様に御協力いただき、第一次募金、第二次募金の総額は2,350,000円となりました。全国の会員の皆様の御協力に感謝申し上げます。

なお、最終報告を本会ホームページに掲載しております。

# 令和7年度 全国公立小・中学校女性校長会活動方針

全国公立小・中学校女性校長会は、結成以来義務教育の充実・発展に努めるとともに女性管理職の育成並びに女性教員の資質の向上や活躍の場の拡大を目指し、たゆみない研究と実践を重ね、今年75年目を迎えた。その成果は、我が国における女性管理職の登用と女性の社会進出に大きく寄与している。教育改革推進と男女共同参画社会の更なる促進に向けて女性校長に寄せられる期待は大きく、それに応えていくことが本会の使命である。

将来の予測が困難な時代において、持続可能な社会の創り手の育成や、日本社会に根差したウェルビーイングの向上、誰一人取り残さない共生社会の実現に向けた教育の推進等が求められている。また、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成や、地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進、教育DXの推進、学校における働き方改革の推進等、第4期教育振興基本計画を踏まえ、「令和の日本型学校教育」の考え方を基盤とし、創意ある教育活動を推進することが重要である。

Society5.0の時代を生きる全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、新たな価値を創り出し、未来社会を創造する力を育むために、家庭や地域、社会と連携・協働し、社会に開かれた教育課程の実現を通して教育成果を示していく必要がある。そのためには、いじめ・体罰の根絶、ヤングケアラーへの支援、特別支援教育の充実等の課題を解決し、子供の学びを止めない教育活動を継続できる体制づくりや、頻発する甚大な自然災害発生に際し、自ら身を守り主体的に行動する防災教育を推し進めていかなければならない。校長は、これらの多岐にわたる課題の解決に向けて学校経営力を高め、全力を傾注し、国民の信託に応えていく責務がある。

そこで、本会の研究主題を「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る子供を育む学校教育の推進」とし、研究・研修活動等に取り組むとともに本会の充実・発展と活動方針の具現化に努めることを目指し、次の活動を重点とする。

## 1 全国公立小・中学校女性校長会の組織の強化と活動の充実

全国公立小・中学校女性校長会と各地区・各都道府県女性校長会との連携を一層密にし、組織の力を強め、活動の充実を図る。

## 2 自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る子供を育む学校教育の推進

「多様性を認め合い 持続可能な社会の創り手として未来を創造する力を育む学校経営」(令和7年度大会副主題)を推進し研究に努め、その成果を共有するとともに、各地域・学校の特徴を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図り、各地域の特性を生かした創意ある学校経営で具現化し、教育成果を示す。

## 3 男女共同参画社会の促進

一人一人が個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の促進に積極的に取り組むとともに、女性教員の活躍の場の拡大と女性管理職の育成及び登用の促進を図る。

## 4 創造的な教育課程の充実

GIGAスクール構想を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化による知識及び技能の習得を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」の育成や、「学びに向かう力、人間性等」を涵養するための教育課程の編成・実施・評価・改善を着実に進める。

## 5 教員の資質・能力の向上

「令和の日本型学校教育」を担う教員の強みや専門性を生かし、明確な人材育成方針の作成、適切な指導・助言、研修体制等の充実を図るとともに、学び続ける教員としての意識を高め、社会から信頼され、尊敬される教員を育成する。

## 6 学校における働き方改革の実現

教員の勤務実態調査等を踏まえ、部活動の地域連携、支援スタッフの充実、教員定数の改善等、国・教育委員会・学校等がそれぞれの立場において取組を着実に推進し、環境整備を行う。また、教員のメンタルヘルスへの対応や校務のデジタル化等の学校DXを推進する。

# 「主体的・対話的で深い学び」を改めて考える －「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実－

講師

文部科学省 初等中等教育局 主任視学官

田村 学 様



【今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理(概要) 令和6年9月18日】

- 1 これからの社会像とこれまでの学習指導要領の趣旨の実現状況
- 2 これからの社会像や現状の課題を踏まえた資質・能力
- 3 各教科等の目標・内容、方法、評価
- 4 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程
- 5 学習指導要領の趣旨の着実な実現を担保する方策や条件整備
- 6 学習指導要領の趣旨の実現に向けた政策形成・展開

## 【新しい学習指導要領の改訂の動き】

令和6年12月25日、中央教育審議会より「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問が出され、今後、議論が本格化する。主要な課題は「自律性の向上」「デジタル学習基盤の活用」「現行学習指導要領の理念や趣旨の実現」の3点で、論点は、資質・能力、教育課程、各教科の目標・内容、様々な条件整備に整理されている。今後、有識者会議と諮問文を参照しながら議論が進められる。改訂内容は、教員採用や働き方改革も含む包括的なものになる見込みである。

## 【教育課程について】

改訂の方向性として、教育課程の柔軟性と独自性を重視している。デジタル学習基盤を活用した指導の強化も中心課題となっており、柔軟な教育課程の編成や地域・学校ごとの特色あるカリキュラムの開発、カリキュラムをどうデザインするかが問われてくる。特例校や研究開発校の事例としては、東京都の2つの区において実施されている授業時間の調整、総合的な学習や探究の時間等の拡充が挙げられる。高等学校では、スクールミッションや3つのポリシー(入学・カリキュラム・卒業)を明確化する動きが進んでおり、義務教育段階にもその流れが広がる可能性がある。このような背景から、これからは、校長のリーダーシップによる創造的で個性あるカリキュラムの設計が一層求められる時代となってくる。教育課程の基準が、全国一律の内容から多様性を尊重する方向へと進化しつつある。

## 【資質・能力の育成と「主体的・対話的で深い学び」の関係】

資質・能力の育成においては、児童が能動的に学び、他者との対話を通じて深い理解を得る「主体的・対話的で深い学び」が効果的とされ、学習指導要領の方向性として示されてきた。令和答申では、さらに「個別最適な学び」と「協働的な学び」が重視され、ICTを活用した一人一台端末の整備が進められた。但し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、授業改善とカリキュラムデザインの両輪が必要であり、児童が協働で学びを深める環境づくりが重要になる。従来設計してきた内容を基盤としつつ、新しい挑戦を取り入れることが求められている。

## 【「深い学び」と精緻化】

情報化が進む中、知識の暗記だけでなく、バラバラな知識をつなぎ合わせ、ネットワーク化し、概念化する力が求められている。「深い学び」では、主体的に考え対話を通じて他者の意見を取り入れ、自身の認識を精緻化することが重要になってくる。子供たちが知識を「内化」し、それを表現や発表で「外化」するプロセスを重視していきたい。さらに学びを関連付けることで、知識が動的で実用的なものとなり、問題解決に活用できる力を育成することができる。「主体的・対話的で深い学び」は、情報化社会で必要な能力を養う基盤となる。

## 【「深い学び」知識・技能をつなぐ(関連付ける)】

深い学びを実現するには、インプットとアウトプットを効果的に組み合わせ、特にアウトプットを重視することが重要である。授業では、音声言語で知識を広げ、文字言語で刻むことで理解を深めるとともに記憶に定着させることができる。知識を繰り返し反復するだけでなく、アウトプットを通じて知識がつながり、「なるほど」「そうか」といった深い理解に至る瞬間を増やすことが目指される。このプロセスで得られる知識はつながりをもつことで、記憶に残りやすくなる。

ICTやデジタル学習基盤の活用により、情報の見える化や構造化が可能となり、授業の効率性と質が向上する。限られた時間内でのアウトプット量や質の高まり、学びの進化を促進していくようにする。教師には、シャープで分かりやすい説明と児童同士の対話や書く活動を活性化させる授業設計が求められる。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を行うことが、資質・能力の育成につながる。

## 【デジタル学習基盤による学び】

自由進度学習は、自分のペースで学ぶことを可能にする学習形態で、デジタル技術の活用によってその可能性が大きく広がっている。例えば音楽や算数の授業では、児童が教材や学習方法を自由に選択し、繰り返し学ぶことで理解を深めることが可能になる。重要なのは、教師の適切な関与と指導である。セルフレギュレーテッドラーニング(自己調整学習)の3要素である「動機付け」「学習方略」「振り返り」を意識する必要がある。導入では、目的や課題を明確化し、終盤には振り返りを行うことで学習の深まりを促進する。また、学びの環境を整え、児童が自律的に取り組める状況を作ることも重要である。単にデジタル端末を使うだけでなく、教師が適切に関わり、指導することによって学びの質を保障することができる。

## 【教育現場の課題と教師の力を高める重要性】

現在、学校では様々な課題があり、特に校長先生方がその対応に苦慮されていることは理解している。教育の価値が改めて認識され、教師の処遇改善の議論も進んでいる。学校教育の重要性は確認されており、先生方一人一人のより確かな力量形成や力の発揮を願っている。文部科学省も新しい施策を現場に寄り添う形で進めていこうと考えている。

## 動物達の魅力を伝える場

札幌市円山動物園園長

柴田千賀子様

現在、日本動物園水族館協会には89の動物園と49の水族館が加盟し、札幌市円山動物園も加盟園の一つとして、全国の園館と密に連携しながら、日々、動物の飼育や運営にあたっています。

私自身は、地元大学の獣医学部を卒業し市役所に技術職として入り、いくつかの部署を経て当園飼育展示部門の課長を6年、再度、他部署に異動の後、昨年度から園長として戻ってきました。

さて、札幌市円山動物園は1951年に開園し、今年で73年目を迎えました。戦後の復興の中で市民の心を和らげようと上野動物園から招いた「移動動物園」が大賑わいとなったことがきっかけで、札幌にも動物園をという市民の機運が高まり、北海道内初の開設となりました。

当時は、園長1名・飼育係1名・管理係1名の職員3名の体制のもと、北海道の動物、エゾシカ・エゾヒグマ・オオワシのわずか3種4点の展示からスタートでしたが、現在は、北海道の動物に加え、アジアゾウやホッキョクグマ、オランウータンなどの世界の絶滅危惧種の展示にも力をいれ、140種600点程の動物を展示し、職員数も70名を超えました。

また、7年ほど前に、現業職であった飼育員を「動物専門員」という専門職にしたことで、動物や自然が好きで動物園で仕事したい！という職員が集まってくれるようになり、1割に満たなかった女性職員も4割を超えるまでに増えています。アジアゾウの担当者は、1頭で毎日100kg出るゾウ糞を5頭分回収したり、フォークリフトを運転してゾウの放飼場に太い丸太を配置したりと勇ましく働いてくれています。

職場の様子ですが、動物専門員や獣医師といった動物分野の担当機械設備・建築物の担当、広報・教育事業の担当がそれぞれの専門を極め、立場の違いを認めながら、動物にとって何がいいのか、来園者にとってどうあるべきかを日常的に議論し、少しずつ歩み寄り、一緒になって動物の行動に感動し、出産を喜んでいます。さらに、予算面などで市本庁や外部と折衝し日々のトラブルに冷静に対応する事務部門が各担当を束ね、少数精鋭で頑張っています。

他にも餌の配送や入園案内、駐車場管理や糞のたい肥化、樹木園路管理、園内店舗の運営などは、事業者やボランティアの方々に支えられています。時に職員より園

の歴史に詳しい場合もあり、頼もしい存在です。

また、来園者の方々からフィードバックを頂くようにしていますが、「動物が見られ楽しい時間を過ごせた」「知らないことを知れた、学べた」「感動した、思い出になった」というお声を頂けることも大きな力になっています。



動物園の果たすべき役割は、ここ10年ほどの間に、癒しの場から、世界的な潮流でもある「地球環境の今を考え生物多様性の重要性をご理解いただく場」「生息地保全事業と繋がり環境教育を担う場」「動物に関する調査研究を行う場」に変わってきました。

当園では、こうした役割を果たす上で、動物園にいてくれる動物たちにより良い環境を提供し、行動を自由に選択できるよう「動物福祉の質」を高めることを根幹に据えて取組を進めており、動物の生き活きとした動きや反応、繁殖成功に繋がることもあり、私たち職員のやりがいにもなっています。

秋になり、たくさんの元気溢れる小学生たちが、カラー帽子を被り、画板を首から下げ動物園を訪れてくれています。画板には、先生方が事前に園内を何度も下見し、吟味を重ねられたお手製の「ワークブック」が入っています。グループになって一生懸命に園内を回り、動物を眺め、歓声が上がります。飼育員をはじめ私も園内で質問を受けます。「飼育で一番大変なことは何ですか?」、「どのくらいお金がかかりますか?」。先生方がきめ細かく気を配り要所所で見守っている様子、困っているグループに声をかけ自発的に活動できるよう促しておられる様子を拝見すると、教育とは本当にすごいなと感じ、園を活用して楽しく学んでくれることを嬉しく思います。

これからも、市民の皆さんに、定期的に来園してもらえるように、また自然の入り口のような場として訪れてもらえるよう、職員一同取り組んでいきたいと思っています。

## 地区情報交換

### 【北海道地区】

8月1日・2日の2日間にわたり、第74回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会北海道大会を開催することができた。全国各地から500名近い校長先生に御参加いただき、二つの講演と分科会・分散会等を通して、職能向上に向けての深い学びを得、笑顔とパワーを充電することができた。成功裏に終えることができ、御支援・御協力いただいた皆様にも厚く感謝申し上げます。成果と課題を今後の北海道女性管理職会の運営と次年度の全道研究大会十勝大会に生かしたい。

### 【東北地区】

今年度第1回の東北地区理事会を、8月の全国理事会直前に同じ会場で行った。青森県は令和8年度に全国大会を控えており、会員数の少ない中でも着実にその準備を進めている。現在、大会の運営担当が決定し、6分科会の各テーマについて全国事務局と打合せを進めている。地理的に離れている青森県と福島県だが、青森大会に向けて、今後どのような協力体制が図れるか模索している。

### 【関東地区】

関東地区では、7月5日に、埼玉県の大宮ソニックシティにて、令和6年度関東地区総会及び研修会を開催した。参加人数は、オンライン参加114名、参集202名であった。オンラインと参集のハイブリット型研修会という新しい形が提案された。

11月の正副会長会、2月の第2回役員・理事研究協議会において、令和7年度総会及び研究協議会（神奈川大会）に向けた方向性を確認していく。

### 【東京地区】

11月30日に学校経営研修会を参集とオンラインの併用の形で開催し、小・中学校の校長から実践報告及び、株式会社羽生プロ代表取締役社長 羽生祥子様による「多様な人材が活躍する働き方」について御講演をいただき、大変好評であった。また、来年度の第75回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会東京大会の開催に向けた取り組みについても参加者の皆さんと共有することができ、今後もALL 東京で準備を進めていく。

### 【中部地区】

6年ぶりに参集型の「中部地区公立小・中学校女性校長研修会岐阜大会」を8月9日に行った。中部10県から200人を超える参加者があり、分科会では活発な議論が交わされた。また前日には、岐阜の鵜飼船での懇親会があり、和やかな雰囲気の中で親交を深めることができた。

今後は、令和8年度に新潟県で行う中部地区研修会の準備とともに、女性校長会の意義そのものについても議論を重ねていく必要があると感じている。

### 【近畿地区】

令和6年8月19日に近畿公立小・中学校女性校長会研究協議会和歌山大会を開催した。花王株式会社特別顧問澤田道隆氏にお越しいただき「企業人生で貫いた本質思考」と題して記念講演を行った。物事の捉え方について貴重な話を伺う機会であった。また、分科会では、各府県からの提案をもとに協議の内容を深めた。特に、他府県の会員との交流は、実り多いものであった。

今後の研究協議会のもち方について、臨時の近畿の理事会を開き、精選と効率化、さらに効果的な開催方法について方針を固めた。女性校長が、澁刺颯爽と在れるよう前向きに舵を切っている。

### 【中国地区】

8月以降、人材育成などをテーマにした研修会、女性管理職登用の現状などについての県教委との懇談会、退職女性校長会との合同研修会など各県の状況に応じ行っている。11月には中国地区理事会をオンラインで開催し、今後の中国大会や女性校長会の在り方について意見交換をした。中国大会については次回（令和9年度）以降の休止も視野に検討・協議を行った。

### 【四国地区】

12月7日に四国4県が7年ぶりに一堂に会し、第27回四国地区公立小・中学校女性校長会研究大会愛媛大会を開催した。約140名が参加し、各県からの提案による分科会、全体会、講演会を行い、全国の主題を掲げ、「～人とつながり共に学びウェルビーイングを高める子供を育む学校経営～」をサブテーマとして研究成果を共有した。活発な意見交換がなされ、学校経営の一助となる有意義な研究大会となった。2年後の次回徳島大会へとバトンタッチを行った。

### 【九州地区】

大盛況で終えた8月8日開催の福岡大会のポイントをもとめたパンフレット型の報告書を、九州8県の全会員に配布した。第2回九州理事会にて行う福岡大会の振り返りを、現在準備が進んでいる令和7年度の佐賀大会に生かしていく。また、各県では、管理職としての経営力・指導力を高める研修や女性管理職の育成に積極的に取り組んでいる。今後も情報交換をしながら、学びを深める活動の充実を図っていきたい。

### 【中学部】

高校入試に向けた指導が本番を迎え、全員の生徒たちが希望の進路に進めるよう、学校全体で取り組んでいる。昨今は高校改革による、科・コースの改変やインターネット出願など、年々異なっていく制度に、確認を怠らず指導し、都度、トリプルチェックを繰り返しながら事務処理にも当たっている。

「15の春を泣かせるな」という言葉がある。彼らが義務教育をしっかりと修了し、希望の進路に向かう後姿を、校長として最上の笑顔で送り出してやりたい。

令和7年度

## 第75回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会 **東京大会**

### 大会主題 **自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る 子供を育む学校教育の推進**

～多様性を認め合い 持続可能な社会の創り手として未来を創造する力を育む学校経営～

期 日 令和7年7月31日(木)・8月1日(金)

開催地 東京都 目黒区

会 場 ウェスティンホテル東京



#### 分科会主題および分散会協議題

分科会	分科会主題	分散会協議題		提案・司会
第1分科会	「生きる力」を育む 学校経営	①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実を図り、 自ら未来を切り開く力を育む学校経営	鳥取県
		②	多様性を認め合い、グローバルに共生できる資質・ 能力を育む学校経営	北海道 (中学部)
第2分科会	教職員のウェル ビーイングの向上 を図る学校経営	①	教師としての専門性や指導力の向上を図り、 教師の自己実現を目指す学校経営	沖縄県
		②	教職員の参画意識・協働意識を高め、 組織の活性化を図る学校経営	群馬県
第3分科会	新たな課題に取り 組む創意ある 学校経営	①	学校組織マネジメントを生かし、 新たな課題に取り組む創意ある学校経営	奈良県
		②	持続可能な社会の創り手を育む学校経営	富山県

#### 令和7年度 第1回 理事会のお知らせ

期 日 令和7年7月31日(木) 午前9時30分から

会 場 ウェスティンホテル東京

#### 第76回 全国公立小・中学校女性校長会 全国研究協議大会

### 青森大会

期 日 令和8年7月30日(木)・31日(金)

開催地 青森県 青森市

会 場 ホテル青森・リンクステーションホテル青森

